

平成22年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ ノザキ ケンタロウ
氏名 野崎 健太郎

研究期間 平成22年度

研究課題名 教員養成課程における自然への理解力を育むケースメソッド型授業の開発

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	野崎健太郎	教育学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

教員養成課程の授業は、旧師範学校への批判から専門学芸（専門性を持つ個別学問分野）への傾倒が強く、課程の目標である教員養成に直結しない個別学問の内容、あるいは教育理論を中心に教授されてきた。現在、教育に対する社会的関心が高まる中で、このような授業内容、形態も批判されつつある。先鋭的な教育学者である佐藤学（東京大学）は、これからの養成課程では、実践的な事例研究を扱うケースメソッドをカリキュラムの中心に据えた授業展開を目指すべきと主張し（IDE, No.472, 2005年）、申請者はその意見に同意することが多い。しかしながら、教員養成課程におけるケースメソッド型授業の開発は遅れている。本研究は、現在の学生が離れつつある自然環境を題材にケースメソッド型授業の開発を目指すものである。

2. 研究方法等

1. 教員養成学部に適した河川環境実習プログラムの検討

湖沼、河川、臨海実習を実施している全国の大学の事例を収集し、そこに申請者がこれまで実践してきた河川実習の経験を加えて、教員養成課程に適したプログラムを考案し実践する。

2. 地域の自然環境と文化を結びつける教材開発プログラムの検討

地域の自然環境と文化は密接につながり、学校現場で利用できる教材の宝庫である。そこで、大学周辺の自然環境（里山、ため池、湧き水など）と地域文化（食文化、伝承遊び、昔話など）を調査し、2つを関連つけるプログラムを考案し実践する。

3. 研究成果の概要

1. 河川環境実習プログラムの実践

2010年8月23日～27日、8月30日～9月3日の2回に分けて実践を行った。それぞれ受講生10名、講師3名、TA2名が参加した。自然科学的手法を用いた河川調査の実際と保育・学校教材の考案と実践を行った。自然科学的手法を用いた教材の考案を期待したが、受講生が提案した教材は、流れを用いた“遊び”に関するものが中心であった。このため、学生が期待する実習内容と私が提供した実習内容が乖離している可能性が考えられた。しかしながら、実習終了後のアンケートの自由記述欄には、自然科学的手法で行った河川調査への素直な感動が綴られており、大きな意味があったことが判明した。今後は教材の開発へと繋がる指導を考案することが課題となった。

2. 地域の自然環境と文化を結びつける教材開発プログラムの検討

前年度に試行したプログラムを見直し、“水”を中核に据えたプログラムを実施した。学校現場の水環境として“ビオトープ”に着目し、椋山女学園大学および附属小学校に設置されたビオトープで調査を行い、ビオトープ建設後の活用方法について議論した。また附属小学校の調査結果はパネル2枚にまとめ、宇土泰寛校長先生を通じて小学校に提出した。続いて、日進キャンパス周辺および、東部丘陵の里山内に散在する水環境の調査を行い、人間活動と里山の環境の関係について考察した。そして授業のまとめとして、地域の食文化は地域の自然に根ざすという観点から、東海地方山間部の郷土食である“五平餅”を用いた教材を実践した。事前の調べ学習、当日の調理実習、事後の受講生の身の回りの郷土食の調査、と3部構成の内容で行った。

4. キーワード（本研究のキーワードを1以上8以内で記載）

①教員養成	②自然体験	③教材開発	④水環境
⑤環境教育	⑥ケースメソッド	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

論文

野崎健太郎（2010）尾張丘陵南部の陸水環境を用いた大学生の自然体験学習－椋山女学園大学人間関係学部（愛知県日進市）周辺の里山における実践－。椋山人間学研究 6,（印刷中）。

学会発表

野崎健太郎（2010）保育・教職養成課程における河川調査実習の実践。全国保育士養成協議会第49回研究大会，山梨県甲府市，2010年9月17日（発表論文集 p.106-107）。

野崎健太郎（2011）小学校教員養成課程における自然体験型授業の実践。日本生態学会第58回札幌大会自由集会「アウェイの生態学」にて講演予定，2011年3月11日。